

学校教育目標の確認とその具現のために

足利市立三重小学校 岡田 行夫

1 はじめに

学校における教育活動のすべては、その学校で設定された教育目標の具現をめざして、経営されなければならない。そのためには、個々の教師が教育目標を共通理解して、さらにこれを分析して学年、学級の経営目標、方針、努力点をたて、意図的に日常の教育活動にとりこんでいくことが必要である。

しかし、教育の現代化が叫ばれているこのごろではあるが、前近代的な学級王國的な域を脱しきれない教師もままみられる。このような教師は、公教育にたずさわるべき使命を忘れていているものである。つまり教育目標具現のための意図的な教育活動から逸脱している。

教育目標を具現させるための、教育諸計画作成にあたっては、学校長を中心として、全職員が、時間と、えい知を結集し、最大の努力をつくして完成したものである。一般的には完成すると、経営概要を編集したり、また要点を職員室に掲示して、本校の教育諸計画はこれで万全であるかのごとき錯覚におちいり、事後の実践化が、どのようにはかかれているかについては努力していない。

したがって、職員全体がこの錯覚におちいっているために、学期末など反省会を実施してみても断片的な一部の教師だけによる発言に終始して、形式の域をすこしも脱することができないで終わってしまう。これは、原点（目標、方針、努力点）を忘れた反省会であって、あすへの教育活動に精進するための強力な原動力とはならないものである。

そこで本校としては、日常の教育活動に忙殺されて、本校教育の原点をおたがいに凝視する機会を失うことを防止する意味において、つぎのような方策を考えた。

1学期末（7月1日）に、本年度の教育目標に対する努力点、具体的事項について、どれだけ達成されたか、その到達度を、全職員に評価させた。そして、それらをできるだけ、なまのまままとめて、プリントにして、職員会で項目ごとに、到達された事項、未到達事項を検討した。さらに未到達事項については、その理由、原因を究明して、第2学期の重点として、努力点、具体事項を明確に指示した。同様にして、第2学期も実施して、第3学期の重点をしぼり、その年度の努力点、具体事項が、できるだけこさず、到達させるようにした。

2 本校の教育目標、方針、努力点、具体事項

(1) 本校の教育目標

- すなおで美しい心の子どもに育てる。 <心のやさしい子ども>
- 健康でたくましい子どもに育てる。 <からだのじょうぶな子ども>
- 進んで学習する子どもに育てる。 <熱心に勉強する子ども>
- よく考えて行動する子どもに育てる。 <よいおこないをする子ども>
- みんなのために働く子どもに育てる。 <よくはたらく子ども>

(2) 本校の教育方針

- 情緒の安定と、豊かな心情を養うことに努め、美しい校風、校風の醸成をはかる。
- 健康安全生活に必要な習慣、態度を養い、気力と体力の増強をはかる。
- 自主的に学習する意欲を喚起し、真理を探究する態度を育てる。
- 正しいものの見方、考え方をにつちかい、主体的に実践する態度を育成する。
- 勤労の尊さを理解させ、勤労を愛する態度を育てる。

(3) 努力点、具体事項

努力点	具 体 事 項
1 情操教育の強化をはかる。	<p>(1) うるおいのある、おちついた学級、学校にする。</p> <ul style="list-style-type: none">◦あかるい、なんでもいえる学級にする。•朝、夕のあかるいあいさつ・朝の歌•給食の時間、子どものグループの中でたべる。•生活日記の指導•おたのしみ会（たんじょう会）•雨の日の室内ゲームの指導 <p>◦おちついたうるおいのある学校</p> <ul style="list-style-type: none">•こん月の歌〈朝会〉•校内善行児童の奨励表彰•給食時間の放送のくふう•昇降口の美化•掲示板の効果的利用•学級花だん、学校花だんの名示 <p>(2) 全校一体となって諸行事、諸活動を感動的なものにする。</p> <ul style="list-style-type: none">◦教師、児童の創意の結集•学芸的行事の実施〈学習発表会、作品展、音楽会等〉•儀式等の創意化〈卒業式、入学式〉 <p>(3) 道徳時間における指導の充実をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none">•ラジオ放送を活用した指導•テレビ放送を活用した指導•読みもの、幻灯などの利用
2 気力、体力の増強をはかる。	<p>(1) 体力の増強をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none">•体育時に全力疾走させる。（低30m、高50m）•投力をつける。•月1回けんすいテストを実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの結果の図式化と自由時間の自主的な体力づくり。 ○ 校内の体育的行事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・球技，陸上競技，マラソン，なわとび，水泳 ○ 集団行動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・行進，リズム，自校体操 <p>(2) 保健管理を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康診断結果の活用 ○ 水のみ場の整備と指導 <p>(3) 安全教育を積極的に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教育指導計画の作成 ・指導時数の確保 ・交通安全信号機による交通教室学期1回実施 ○ 登下校通学班訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4月中当番制，5月以後は毎月1回朝実施する。 ○ 校内安全点検日設定 <ul style="list-style-type: none"> ・校舎内，歩行免許証の発行
<p>3 学習意欲をたかめ，基礎的能力の向上に努める。</p>	<p>略</p>
<p>4 児童指導の充実に努める。</p>	<p>(1) 全職員の共通理解による指導の強化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回定期的に「児童について語る会」実施 ・「三重のよい子」の内容を検討し改善をはかる。 ○ 自主的活動と実践力を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護当番制の実施 (週1回名札しらべ) ・学級会活動のくふう ・児童会活動を活発にする。(規約改正，その他) <p>(2) 基本的行動様式を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三重のよい子」の活用をはかる。 ・便所の正しい使い方(上ばきの励行) ・廊下の歩き方の指導(歩行免許証をもたせる) ・時刻をよく守る習慣

<p>5 奉仕的な活動とお して勤労の尊さを理解 させ実践化をはかる。</p>	<p>(1) 清掃指導の徹底と継続的な指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月別清掃目標の設定 ・毎月1回検閲大掃除 ・子どもとともに教師も清掃作業に努める。 ・校庭の除草作業区域のクラスごと分担 <p>(2) 学級園設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材園の管理 ・学級園のクラス名札の作成 ・学級園への児童の参加 <p>(3) 学校のをを正しく使い、整理、整頓する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館の正しい使い方 ・上ばきの使用徹底 ・運動具の正しい使い方（終了ごの整頓） ・窓の開閉 ○ 体育小屋の管理 ○ 図書館の正しい管理（使用ご2分間指導） ○ 理科室の整頓，実験器具の正しい使い方（使用ご5分間指導） ○ 清掃用具の整頓（終了ご2分間指導）
<p><教材，教具の正しい使 用法の指導，公共物の 愛護></p>	

3 具体的方法とその結果について

(1) 第1学期の実施とその結果

紙面の都合で，努力点，具体事項のうち「気力，体力の増強」，「児童指導の充実」，および経営方針，努力点，具体事項のうちから「校内環境整備と施設設備の充実」をとりあげる。

A 気力と体力の増強をはかる。

本年度の具体的事項	第1学期の評価（反省事項）	第2学期の対策（アイデア）
<p>(1) 体力の増強をは かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育時に全力疾走 （高中50m, 低30 m） ○ 月1回けんすいテ ストの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録をとるのがめんどろ。 ・コースをロープで作っておく。 ・疾走を時間のどこに位置づけるか。 ・学年でまとめて集計してほしい。 ・子どもたちで相互にやらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスでグラフ化しておく。 ・ストップウォッチを児童使用さ せる。 ・足利→高崎まで走る表をつくる と自由時間にいつもやる。 ・体育時の終了直前（補強運動） ・子どもたち相互にやらせる。 ・グラフ化がたりない。

<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツテストの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・テストのためのテストにおわる。 ・検定章をもらうためにやるのか。 ・時間がかかりすぎる。 ・テスト日を早く予告して、自由時に自主的に練習しておかせる。 ・集計後各個人のグラフを作らせて、記録をのばす対策がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のテスト日は早く予告する。 ・時間の節約のため分担を明確にする。 ・体育主任がグラフを印刷する。 ・個人の記録をのばすくふうをするには、自由時にむすびつけることがたいせつである。
<ul style="list-style-type: none"> ○校内各種競技の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・小運動会はかなりもりあがった。 ・校内競技が2学期に集中しすぎる。 ・体育館使用による体操競技はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に集中してしまったが、合体等でやれるゲームもある。学年内でくふうしてほしい。 ・技球、陸上、水泳、マラソンは第2学期に必ず実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ○集団行動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では服装をきがえるのに時間がかかりすぎる。 ・内容が毎日かわりすぎる。 ・教師が休憩がとれない。 ・児童におちつきがない。 ・雨天などやるかどうかわからないでまよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上着をぬぐ程度にしてもよい。 ・内容に変化をもたせすぎて指導者も根負けしている。 ・教師も上着をぬぐ程度でよい。休憩時は15分とってある。 ・授業にくいこまぬようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ○保健管理を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのケガが非常に多い。とくに1年～3年までに。 ・骨折が目だつ ・治療票をわたすが医師にいかない。 ・水飲み場のコップがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とくに低学年では遊具の使用上の指導をすること。 ・調整力が乏しい。体育時の指導の重点にする。 ・治療票はクラス担任がよく指導する。 ・養護の方でクラス別表でしめす。
<ul style="list-style-type: none"> ○安全教育を積極的に推進する。 	<p>略</p>	<p>略</p>

上記の第1学期の反省事項第2学期の対策(アイデア)を運営委で検討して、重点をしばり、第2学期の努力点として全職員に印刷配布して、実践にうつすことにした。そして第2学期末に再び反省会を開いてみた。その結果が次の通りである。つまり第2学期の重点が、明確に指示され、それを係が、推進担当者となって、実践化される。

第2学期の具体策	第2学期の評価(反省事項)	第3学期の対策(アイデア)
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 体育時全力疾走 50m, 30m 記録をとる。 ◦ コースをきめておく。 ◦ 足利-高崎まで疾走する表をつくる。 ◦ 校内各種競技を実施する。 ◦ 大ケガをさせるな。 ◦ 集団行動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 体育時の教材の消化が心配になって、低学年では、どうしても困難である。 • タイムにあまり気にせず実施するとよい。 • 疾走から持久走にきりかえて実施したが、自由時間によく走った。 • 陸上記録会は学級対抗であったのでかなりもりあがった。 • 賞状、新記録など子どもは満足した。 • 持久走は、事前に予告したので、各学年とも自由時に練習した。 • どうしてもケガがすくなくならない。 • 骨折をはじめ人命につながるほどの子もあった。 • 服装がふだん着なので、低学年では混乱しなくなった。 • どうしても授業にくいこむ。 	<ul style="list-style-type: none"> • 冬季は、持久走にきりかえて、実施するとよい。 • 足利 → 高崎までの持久走は子どももくいついて朝よく走るのでは是非やるとよい。 • 実施計画を3週間程前に公表してもらおうように係で計画する。 • 低学年でも学年で体育的行事を実施する。 • 賞状のアイデアはぜひ今後も実施する。 • 休み時間に一言「けがするな」と教師が指導する。 • 低学年では、体育時にもっと負荷をかけること。 • 冬期になるので、校庭で実施するのはむりである。 • 学年合体で実施するとよい。

B 児童指導の充実に努める

本年度の具体的事項	第1学期の評価(反省事項)	第2学期の対策(アイデア)
<ul style="list-style-type: none"> (1) 全職員、指導事項についての共通理解をはかる。 ◦ 毎月1回定期的に「児童について語る」会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月実施する「児童について語る」会は、児童の生活状態把握によい。 • 須田指導主事の講話、指導はよかった。(職員のみではドングリ…) • 週目標ではこまかすぎる。守れるまで徹底させる。 • もっとフリーに子どもの問題をさぐってやりたい。 • 生活指導があますぎる。職員の共通理解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童相談の技術修得ができないか。 • 週目標を多くしないで、守れてから次の目標にうつる。 • 児童のかげの善行を認めてやるために善行表彰する。 • この子をどうするかという熱意がまず必要だ。

<p>(2) 基本的行動様式を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「三重のよい子」の活用をはかる。 ◦ 便所の正しい使い方 ◦ 廊下の歩き方指導（歩行免許証） ◦ 時刻をよく守る習慣 	<ul style="list-style-type: none"> • 「三重のよい子」の内容を再検討 • 時間のはじまる前によませる。 • 教師がまめに活用すれば、児童も利用できるようになる。 • 便所の使い方がわるい。とくに男子 • 便所の清掃はたいへんよくやっている。 • 廊下に標識をつくったのはよい。 • 教室移動の場合の歩行が悪い。（音楽、理科） • 歩行免許証はまだできないか。 • 昇降口の渡り廊下に土足であるものがある。 • 放課ごの下校時刻を守らない。 • 清掃時間の厳守 	<ul style="list-style-type: none"> • 内容について検討すること。 • 教師がいつでも利用させるようにくふうする。 • 上ばきをいつもはかせるようにクラスで指導する。 • 上ばきの定期点検 • 便所の清掃にゴム手袋を使用させること。 • 歩行免許証を第2学期からもたせる。 • 教室移動の場合、担任教師が誘導する。（低学年はよくやっている） • 日直が、レコードで必ず合図すること。 • 重点的に清掃させて、時間内に終了させる。
---	--	--

第2学期の具体策	第2学期の評価（反省事項）	第3学期の対策（アイデア）
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 週目標が完全に守れるまで継続する。 ◦ 善行児童の表彰をする。 ◦ 歩行免許証を携帯させる。 ◦ 放課ご下校時刻の合図をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 朝礼などで週番児童に目標を発表することはよい。 • 目標の徹底をはかるために教室でも指導してほしい。学級差が目だつ。 • 善行表彰は子どもにとって、はげみになっている。係の先生の努力が実った。 • 免許証をもつようになって、走る子どもがなくなった。今までで、最も効果があった。 • 放課ごの時刻の合図があってもまだ遊んでいる。（記録会等の練習のためか） • あそびに夢中になって、合図がききとれない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童（6年生）の室内巡視をさせる。 • クラスでいつも板書しておくこと。 • 善行児童の表彰は第3学期も継続させる。 • 子どもの反応をみるためにアンケートをとること。 • 免許証の効果は最大である。今後は教師の根気まけしないことが大切である。 • 校庭に垣根がないので指導しづらいが、合図だけでなく、教師が放送をする。 • 土曜日の下校は、とくに厳格にする。

C 校内環境整備と施設、設備の充実に努める。

本校の校地、校舎等は、旧三重中学校、旧三重小学校をあわせたものであり、管理上からも児童の教育上から見ても調和を欠いている。これは、いろいろな事情によるが、さりとて、現状のままで、許されるべきものではない。時おり、子どもの声をきくと、施設、設備の不備をまず訴えている。教師として、この子らの声をなんとか実現してやりたい気持でいっぱいである。しかし、このことに対しては、直接予算とも関係していることであり、いつも頭痛のたねである。

本年度の具体的事項	第1学期の評価(反省事項)	第2学期の対策(アイデア)
<p>1 うるおいのある学園建設をめざして環境の整備につとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各クラス花だんの整備 ○教材園の設計 ○講堂周辺の整備 <p>2 廊下、昇降口の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○廊下、階段等に額縁による作品をかざる。 ○昇降口のコンクリートながし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級園の管理にクラス差がめだつ ・学級園の配置に問題がある。 ・学級園の管理に子どもをもっと参加させる。 ・第1舎の花だんの管理はよかった。 ・学年ごとに教材園がほしい。 ・講堂の芝生の管理はだれがするか。 ・作品をかざってみたが、校舎が古びているので、すこしも調和しない。 ・平日ではできないので、夏休み中実施しないと、いつになってもできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級できちんと当番をきめてやること。 ・教師が花を愛する気もちから出発しなければ…… ・教材園については、予算がないので夏休み中職員作業でつくる。 ・額をもっとふやして、子どもの作品をたいせつにしてやる。 ・図工の資料としてもよい。 ・休み中にぜひ実施できるように設計すること。

第2学期の具体策	第2学期の評価(反省事項)	第3学期の対策(アイデア)
<ul style="list-style-type: none"> ○学級園の整備と管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加に必要な用具が不足している。 ・2, 3舎とも、ブロックで一段かこうとよい。 ・球根は共同購入によっていっせいに全体計画を立て調和のある花だんにしたい。 ・よい土がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具については、整備する。 ・球根は、共同購入によって配当すること。 ・秋のおわりごろ整備週間をもうけて、次年度にひきつぐこと。

<p>◦教材園の職員作業によって作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> •計画どおり、学年ごとに、立派な教材園ができた。(夏休中) •学年ごとに、栽培する教材の内容まで示してくれたのはよい。 •あとは、管理の問題である。 •一つの場所を6年までもちあがりにするとうい。 •土がたりない。土を購入してほしい。 •学年ごとに、立札を明示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> •職員用の花だんがほしい。 •教材園の中央に岩石園を作るとよい。 •水道をひいてもらおうとよい。 •各学年ごとに土を車1台分購入すること。 •係の方ですぐ計画する。
-------------------------	---	--

4 ま と め

学校教育目標、方針、努力点、具体事項が、いかに完璧に作成されたとしても、しよせん、人間がなしたわざである。日に日に成長してやまない無限の可能性をもつ児童の教育であればこそ、年1回の評価では不充分といわねばなるまい。やはり、ステップを細かくして、実施すれば、その時点において、問題を究明することができる。そして、いつ、だれが、どうすれば到達できるかという対策もおのずから生れてくる。

(1) —— 教育目標という窓から子どもをみる機会があたえられる。——

子ども不在の学校教育におちいつてはたいへんであると誰しも思っている。しかし子どもを忘れた教育をしてはいないかという反省をしたことがあるだろうか。各具体事項について細かく検討していくことによって、かならず子どもの実態が把握できる。

(2) —— 校務分掌上、自分の仕事の内容が確認される。——

年度はじめに係の仕事の内容について話しあい、自分の責任が明確にされるが、学期なかばになると、多忙に負けてしまう。概要等に印刷してみたが、それもみてくれないものである。そこで学期末忘れているころ反省会をやることによって、「それは、わたしがやるべきか」などの声も出るほどである。「いまからでもおそくない」の激励の声もとぶ。

(3) —— 推進担当者の責任はおおきい。——

到達できたものは消されていく。推進担当者は項目が残れば残るほどつらくなる。逆に消されることによって、成功感がわくようだ。計画だおれがかなり防止できる。

(4) —— 学校運営の大切な柱である。——

会議が開かれるが、どうしても特定の教師の発言に左右されてしまうものである。とくに女教師の多い小学校においては……。みんなが自由に意見が述べられる方法としては、記述式が、能率的である。経験者は経験者らしく、若い教師は新しい感覚で思うことをズバリそのまま、記述してくれる。それ等を総合して判断しつつ学校運営にあたることができる。ひとりひとりの教師が本当に大切な柱である。

(5) —— 客観的評価にむすびつけて意義がうまれる ——

本校で実施しているものは、客観的尺度を通して評価したものではない。いわば感にすぎない。その点科学的評価とはいえないかもしれない。しかし、教師のモラルが信頼できるとすれば価値がないとはいえないと思う。ただこの方法のみ継続することは危険であるため、やはり、2～3年おきに客観的尺度をとおして実施することが必要である。むしろその時こそ、現在実施している記述式が意味をもつことになるのではないかと思う。

以上、実践記録という名にあたいしない内容で終わってしまったが、教師自身がそれぞれ、教育目標具現のために日常の教育活動があるのだという認識をもってくれば、そのねらいは達せられたと思っている。たとい、方法は極めて平凡であり、歩みはおそくとも……。

評

学校が正常にうごいているということは何も問題をおこさずに教育が行なわれているということではない。学校の定めた教育目標を追うて教育が行なわれていることなのである。そして教育目標を追うて教育が行なわれているかいないのか、これを確める働きが目標管理というものである。

ともすると、目標を抜きにして計画だけがひとりあるきをしたり、計画倒れに終ったりする傾向があるが、本研究では、毎学期1回（年3回）、教育目標達成のための努力点、具体策について全職員で評価活動を実施している。そして到達された事項、未到達の事項を洗い出し、未到達事項についてはその原因を追求し、さらに次の学期の重点事項として取りあげ、年度の努力点のすべてにわたってその達成を図ろうと意図しているものである。その過程の中で学校の教育目標という窓から当然子どもたちを見つめる機会が持たれ、教育目標を再確認し、その達成に全職員一丸となって努力しているきびしい実践はまことにすばらしいものであり、心から敬意を表するものである。

今後、教育目標と教育課程、教育目標と学年学級経営、教育目標と校務分掌などとの関連についてもメスを入れ、教育目標の具体化（目標管理）についての研究を深めていかれることを期待するものである。